

シラバス参照

授業科目名	作業療法学概論
単位数	1
授業形態	講義
講義コード	6012
授業担当者氏名	下田 信明(シモダ ノブアキ)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	1. 作業療法の定義、歴史、対象と領域について説明できる。(DP2・4・7・9) 2. 作業療法の実践過程、理論と技術、研究、エビデンス、教育について説明できる。(DP2・4・7・9) 3. 関連法規と職能団体、各障害領域における作業療法について説明できる。(DP2・4・7・9)																								
授業概要	作業療法は、対象となる人にとって目的や価値を持つ生活行為である作業に焦点を当てた治療・指導・援助である。作業は、具体的には、食事、更衣、トイレ、コミュニケーション、料理、外出、趣味活動などの広い範囲の応用行動を指す。また現在の作業療法は、それら応用行動の基盤となる脳機能を含む心身機能の改善にも注力している。本授業では、作業療法学の発展に寄与するために、また作業療法臨床を適切に実施するために必須の基礎知識である作業療法学・作業療法の定義と歴史、対象となる人々、実践の枠組み、学問としての作業療法モデル論について学修する。																								
科目ナンバリング	1-KRS-2-M09-1-1/1-KRR-2-M08-1-2																								
科目ナンバリングについて	科目ナンバリングとは、授業科目に各々の番号を付すことで、学問分野や学修の段階等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。科目ナンバーは次のように構成されています。 1 - AAA - 1 - A01 - 1 - 1 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (1)設置 大区分(大学・短大) (2)設置 小区分(学部、学科、専攻等) (3)科目分類 大区分(共通科目、専門科目等) (4)科目分類 小区分(学問分野を体系化し分類) (5)配当学年 (6)科目種別(卒業に係る必修・選択の区分) 詳細は下記をご覧ください。																								
科目ナンバリング参照ページ	https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/course_number/post_3.html																								
授業の特徴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>特徴</th><th>該当</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり</td><td></td></tr> <tr> <td>B: 課題解決型(PBL)連携なし</td><td></td></tr> <tr> <td>C: 討議(ディスカッション、ディベート等)</td><td>○</td></tr> <tr> <td>D: グループワーク</td><td>○</td></tr> <tr> <td>E: プレゼンテーション</td><td></td></tr> <tr> <td>F: 実習、フィールドワーク</td><td></td></tr> <tr> <td>G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)</td><td></td></tr> <tr> <td>H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)</td><td></td></tr> <tr> <td>I: 反転授業</td><td></td></tr> <tr> <td>J: 外国語のみで行われる授業</td><td></td></tr> <tr> <td>K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業</td><td></td></tr> </tbody> </table>	特徴	該当	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり		B: 課題解決型(PBL)連携なし		C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○	D: グループワーク	○	E: プレゼンテーション		F: 実習、フィールドワーク		G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)		H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)		I: 反転授業		J: 外国語のみで行われる授業		K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業	
特徴	該当																								
A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり																									
B: 課題解決型(PBL)連携なし																									
C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○																								
D: グループワーク	○																								
E: プレゼンテーション																									
F: 実習、フィールドワーク																									
G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)																									
H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)																									
I: 反転授業																									
J: 外国語のみで行われる授業																									
K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業																									
実施形態	対面授業科目																								
実施形態について	※本学では、授業科目を以下のとおり分類しています。 対面授業科目 : 授業回数の全部あるいは授業回数の半数以上を対面で行う授業科目 メディア授業科目 : 上記「対面授業科目」以外で、主にメディアで行う授業科目 ※上記実施形態と異なる授業回がある場合は、以下「授業計画」欄に記載しています。																								
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td><td>オリエンテーション。作業療法を学ぶ前に、「作業」とは。(下田 信明)</td></tr> </table>	第1回	オリエンテーション。作業療法を学ぶ前に、「作業」とは。(下田 信明)																						
第1回	オリエンテーション。作業療法を学ぶ前に、「作業」とは。(下田 信明)																								

	第2回	「作業療法」とは、作業療法の歴史。（下田信明）	
	第3回	世界の作業療法、作業療法の対象と領域、小テスト1回目。（下田信明）	
	第4回	作業療法の実践過程、作業療法の理論と技術。（下田信明）	
	第5回	作業療法の研究、エビデンス、作業療法の教育、グループワーク、小テスト2回目。（下田信明）	
	第6回	関連法規と職能団体、身体障害領域の作業療法、グループワーク。（下田信明）	
	第7回	精神障害領域の作業療法、発達系障害領域の作業療法、老年期障害領域の作業療法、小テスト3回目。（下田信明）	
授業外学修 予習（事前学修）	各授業	教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	100分		
授業外学修 復習（事後学修）	各授業	毎回の講義ごとに、A4用紙1枚程度に、講義内容の要約を行うこと	
	100分		
評価方法	定期試験（70%）、小テスト（30%）		
教科書等	教科書：作業療法学概論テキスト（南江堂）		
課題に対するフィードバックの方法	manaba、ポータルなどにより伝達する。		
その他			
授業担当者の実務経験の有無	実務経験あり		
「授業担当者の実務経験の内容」および「実務経験を活かした授業内容」	病院・老人保健施設などに勤務した経験を有する教員が作業療法学の概要について解説する。		
ファイル			